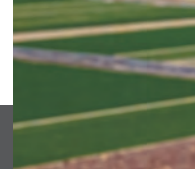


教養と人間力を備えた良き医療人を目指して、ともに佐賀で学ぼう



理想の 医師への想いを、 佐賀県で形に。

医師になりたいと思うあなたへ。

山や海、田畑の風景が身近にあり、
人のあたたかさが、
暮らしの中に息づいている佐賀県。

ここには、患者さんの不安に寄り添う優しさを持ち、
地域を支える医師が活躍しています。

**『佐賀県推薦入学特別選抜』では、
佐賀の医療を支える医師を目指す方を
募集しています。**

思いやりのある心で患者さんに向き合い、
地域に必要とされる医師へ

あなたが思い描く医師像を、
この土地の暮らしの中で
形にしていきませんか。

令和9年度
佐賀大学医学部医学科
佐賀県推薦入学
特別選抜学生募集

令和9年度 佐賀大学医学部医学科 佐賀県推薦入学特別選抜学生募集

第1次選考 佐賀県

- 出願期間 令和8年10月13日(火)～23日(金)
- 第1次選考(面接試験) 令和8年11月7日(土)・8日(日)
- 結果発表 令和8年11月10日(火)

※出願者数によっては、書類審査を行う場合があります。

第2次選考 佐賀大学

- 出願期間 令和8年11月11日(水)～16日(月)
- 第2次選考 令和8年11月28日(土)
- 共通テスト 令和9年1月16日(土)・17日(日)
- 合格発表 令和9年2月9日(火)

出願期間 及び 試験日

受験対象者

- 佐賀県内で医療活動に従事する意志のある方
- 出身高校所在地は県内外を問いません
- 高校卒業後2年以内の方 (令和9年3月に高校卒業予定の方を含む)

選考方法

- 第1次選考は佐賀県が行います。
合格者は佐賀県の推薦により佐賀大学医学部による第2次選考を受験する資格を得ます。
- 最終合格者は10名(予定)です。

入学後の義務

- 在学中は佐賀県医師修学資金の貸与を6年間受けていただきます。
- 卒業後は佐賀県内での臨床研修を含む9年間、医療機関において診療に従事していただきます。(臨床研修後は、佐賀県内の所定医療機関の指定診療科(※)で診療に従事していただきます。)

※内科、小児科、外科、産婦人科、脳神経外科、麻酔科、救急科、総合診療科
詳しくは「佐賀県医師修学資金等の手引」および「佐賀県キャリア形成プログラム」をご覧ください。



佐賀県 医務課 医療人材政策室

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1-59
TEL : 0952-25-7358 E-mail : imu@pref.saga.lg.jp

佐賀県推薦入学特別選抜

士が働く医師を応援
佐賀県医師支援サイト▶

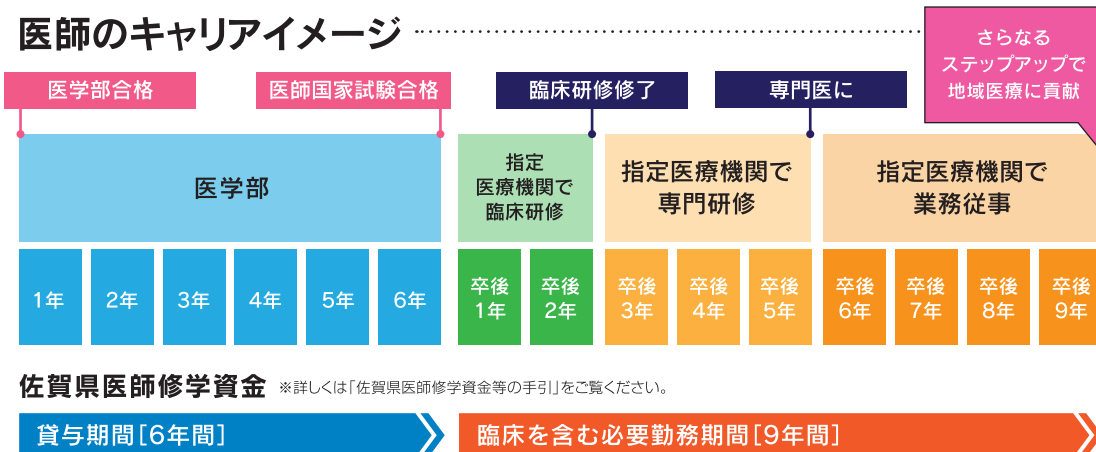


この入試枠で求める佐賀県が“推す人材”とは…

- 佐賀県で医師として地域に貢献したい人
- 医師が不足して困っている地域や診療科を支えたいという意志のある人
- 佐賀県が好き！佐賀県で働きたい！という思いのある人



医師のキャリアイメージ



キャンパスライフ



キャリア支援面談

学生生活や将来の進路について、キャリアコーディネーターが面談し、必要な助言や支援を行います。

佐賀県がサポートする取り組みの一例



西部医療圏バスツアー

県内で比較的医師が少なく、医師確保が必要な西部医療圏（伊万里市・有田町）の病院を訪問・見学します。



佐賀大学・自治医科大学・長崎大学合同夏期実習

3日間にわたる病院見学や離島診療所での実習等で地域医療の現状に触れるとともに学生同士や現役医師との交流を深めます。

なぜ推薦入学特別選抜を行うのか？

高齢化に伴い増加する医療需要への対応が求められる中、誰もが安心して医療サービスを受けられるよう、将来の動向を見据えながら、医療提供体制を構築する必要があります。県内の医師数について、人口10万人あたりの水準による比較では、県全体で全国平均を上回っていますが、一部の地域及び診療科では、更なる医師の育成・確保が必要です。

本制度は、今後、佐賀県において特に必要とされる医師を育成することを目的としており、卒業後、指定の診療科を専攻し、県内の各地域で医療活動に従事する医師を目指す方を求めるために実施します。

夏期実習参加者の感想

医学部1年生

最先端の在宅医療の技術に触れたり、高齢者の方が通う施設の職員さんのお話を聞いたりすることで、大学の授業だけでは分からなかった実際の医療現場を知ることができました。また、先輩の医師からは、身に染みる人生の助言をいただき、非常に感銘を受けました。

1年生の間にこんなに貴重な経験ができて、本当に良かったと思っています。

医学部2年生

この実習を受けるまでは、在宅医療について曖昧にしか理解していませんでしたが、地域住民のライフスタイルや価値観に沿った医療の提供という側面が強く、高齢化社会において不可欠な診療形態であることがよく分かりました。

今後、地域医療を担う医師となるために、自分が活動する地域の特性を理解するというプロセスを大切にしたいと考えているようになりました。

医学部3年生

3日間の夏期実習の中で、病院や施設を実際に見学させていただき、医療の現場に直接接することの重要性を改めて強く感じました。

また、実習を通じて、佐賀の地域医療に関する知識を深められただけでなく、他大学の学生とおしゃべりをしたり、グループワークで意見を交換したりすることで、互いの交流を深めることができました。

■病をきっかけに「寄り添う医療」の道に

小さい頃から病院に定期的に通院する必要があり、ずっと小児科に通っていました。小学校高学年、将来の夢を考え始めた頃に、主治医の先生から「医療職はどう？」と声をかけていただいたのが、医師を意識したきっかけです。「人に寄り添える職業はいいな」と子どもながらに感じていました。大学浪人時に予備校の先生の勧めで佐賀県推薦入学特別選抜に応募しました。経済面で助かっただけでなく、出身地の久留米を離れて一人暮らしをしながら学ぶ上でも安心できました。医師になった後も、特別選抜の先輩後輩で交流の会もあり、人脈が広がっています。

■人生の節目に立ち合い、何度も感動

もともと周産期医療に興味があり、小児科と産婦人科のどちらに進むか悩みました。最終的に産婦人科を選んだのは、お母さんに約10カ月寄り添い、主治医として長く深く付き合っていける点に魅力を感じたからです。産婦人科は、「おめでとう」と言える場面が多く、生命の誕生に立ち会えたときの感動は何度経験しても色あせることはありません。現在は、大学病院や地域病院で経験を積む専攻医2年目として、患者さんの人生の大切な節目に関わることができる、今の仕事にとっても満足しています。

■患者さんからの信頼がモチベーション

若手の私に対して、患者さんから「先生に手術してほしい」「先生でよかった」と言っていたときにはやりがいを感じます。

救急対応も多く、体力的にハードな面があるのも事実です。自分の力不足を感じて辛くなることもあります。再び同じような症例に出会った際、以前よりスムーズに対応できるようになると自分の成長を実感することができます。病気だけを診るのではなく、患者さん自身に目を向け、心から「診てほしい」と思ってもらえる医師になれるように努力を続けています。

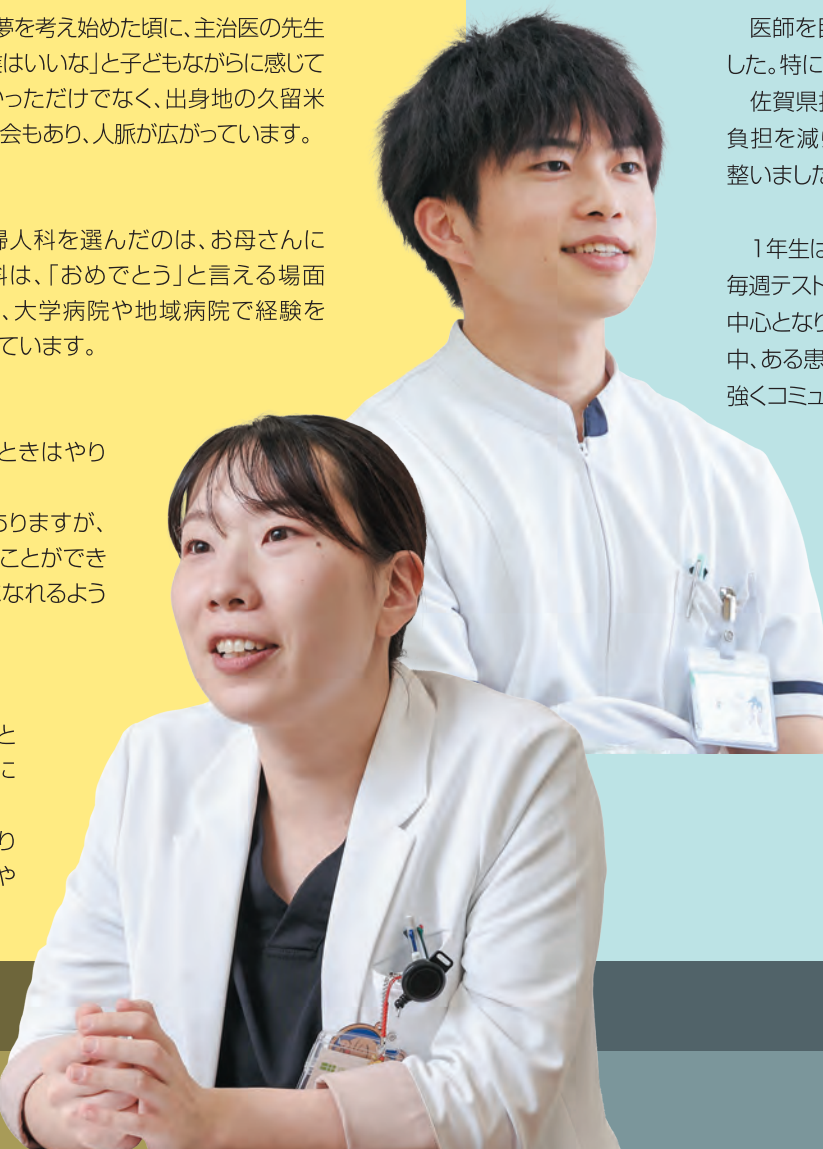
■暮らしやすい佐賀で、自分らしく働く

佐賀の患者さんは本当に優しい方ばかりだし、町はコンパクトでどこへ行くにも便利で暮らしやすいと感じています。働き方改革も進み、オフの日は推しのライブ映像を見てリフレッシュしたり、後輩と旅行に行ったりと、仕事以外の時間も充実しています。

医師は患者さんから「ありがとう」と言ってもらえる、とてもやりがいのある職業です。大変なこともありますが、そのぶん得られる喜びも大きく、医師になって良かったと感じています。医学部入学後は試験や研修など大変ですが、諦めずに乗り越えてほしいと思います。

佐賀県医療センター好生館 産婦人科 専攻医2年目 鶴久 麻由美 先生

先輩の 体験談



■医療現場をまとめるリーダー的存在に惹かれた

医師を目指し始めたのは高校1年生の頃。父が放射線技師、母が看護師で、小さいころから医療現場の話をよく聞いていました。特に、医師は現場でリーダーとなり、多職種のまとめ役を担っているという話に強く惹かれました。

佐賀県推薦入学特別選抜に応募したのは、1年間大学浪人を経験したことが大きいです。両親への恩返しというか、学費の負担を減らしたいという思いがありました。そのおかげで気持ちにも時間的にも余裕ができて、勉強に集中できる環境が整いました。

■患者さんの信頼を得られて感じた喜び

1年生は大学に慣れること、勉強の仕方を学ぶことから始まり、無理なくスタートすることができました。でも2年生で解剖実習や毎週テストが始まると大変です。友人たちとファミレスに集まって、教え合いながら乗り越えました。3年生からは臨床科目の学習が中心となり、実際の医療現場に直結する内容が増えるので一気に楽しくなりました。5年生になると病院実習が始まります。実習中、ある患者さんに年齢を尋ねた際、なかなか教えてもらえないことがありました。もっと自分を信頼してもらえるようにと、粘り強くコミュニケーションを続けた結果、「今日は君のことを考えていた」と言ってくれたときは、本当に嬉しかったです。

■部活動でのリーダーシップと絆

小学校から続けているバスケットボール部では、大学でキャプテンを務めています。大学の部活は監督がいらないため、練習メニューの考案から、大会の運営まで、すべて自分たちで行わなければなりません。練習メニューをハードにし過ぎて不満が出たこともあります。話し合いを重ねてチームをまとめていく経験は大きな財産になりました。また、部活の先輩方からさまざまなアドバイスをもらうことも多く、学業の面でも助けになりました。

■佐賀に根差して、誰からも頼られる存在に

将来は、自分の手で直接病気を治しているという実感が持てる外科を志望しています。候補は呼吸器外科です。実は僕自身、大学に入ってから「気胸」で手術を受けた経験があり、自分を助けてくれた先生方のように、患者さんを助けたいという思いがあります。キャリアの基盤は、生まれ育った大好きな佐賀に置きたいと考えています。幼い頃からスポーツのけがで地元の医師に助けられてきたので、今度は私が患者さんからも他の医療スタッフからも頼られる存在になりたいです。

佐賀大学医学部医学科 5年生 姥 京佑 さん